

【案】

滋賀県農業・水産業基本計画

(仮)つながり、つづく、しがの農業・水産業

～滋賀の食で、広がる豊かさ～

素案
(たたき台)

令和6年(2024年)12月

滋賀県

目次

はじめに

1 策定の背景	1
2 性格	2
3 計画期間	2

第1章 基本理念

第2章 目指す2030年の姿

1 共通視点「人」	6
2 視点「経済」	7
3 視点「社会」	8
4 視点「環境」	9

第3章 政策の方向性

1 目指す2035年の姿と県の施策の一覧図	10
2 目指す2035年の姿の詳細と県の具体的施策	11
(1) 共通視点「人」	
人・1 担い手を確保・育成する	12
人・2 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する	13
人・3 農業・水産業の魅力発信によるファン拡大	15
(2) 視点「経済」	
経済・1 需要の変化に対応できる生産力を確保する	17
経済・2 地域の魅力や強みを生かした生産を進める	19
経済・3 経営体質の強化を進める	21
経済・4 消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大	23
(3) 視点「社会」	
社会・1 農山漁村に関わる人を増やす	25
社会・2 集多様な主体との連携強化で農山漁村の暮らしの維持・活性化を図る	26
社会・3 地域全体で生産基盤を守る	28
(4) 視点「環境」	
環境・1 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する	29
環境・2 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む	31
環境・3 気候変動から生じる自然災害などのリスクに対応する	33
3 成果指標・参考資料一覧	34

第4章 政策の推進方法

参考資料

はじめに

1 策定の背景

本県では、令和3年(2021年)10月に農業・水産業の中期的な施策の方向性を示す「滋賀県農業・水産業基本計画」を策定しました。この計画では、コロナ禍を経た気付きを踏まえ、「県民みんなで創る 滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」」を基本理念とし、計画終期である令和7年度(2025年度)までの成果指標、およびその達成に向けた施策を定めました。

計画に基づき積極的に各施策を進めてきた結果、「森・里・湖^{うみ}に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム(以下「琵琶湖システム」という)」の世界農業遺産認定、県オリジナル品種である水稻「きらみずき」やイチゴ「みおしずく」の育成、滋賀びわ湖漁業協同組合の発足等の成果が得られました。一方、担い手の確保・育成、需要の変化に対応できる生産力の向上、多様な主体の連携による農山漁村の活性化等、継続して取り組むことが必要な課題も顕在化してきました。



世界農業遺産「琵琶湖システム」を
象徴するランドスケープ

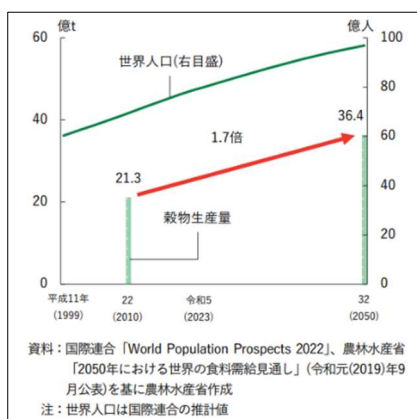


県が初めて育成した
イチゴ「みおしずく」

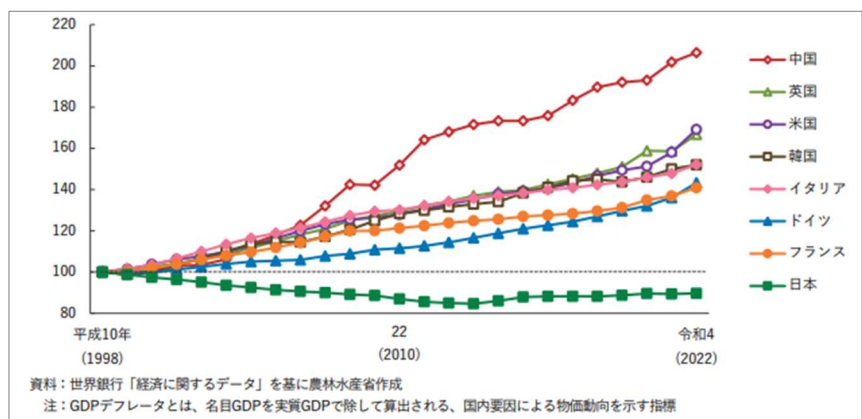


滋賀びわ湖漁業協同組合の発足

世界に目を向けると、人口増加に伴う食料需要の増加が予想される一方、気候変動による異常気象の頻発化や、国際紛争等により、世界の食料生産・供給は不安定化しています。とりわけ、日本では長期にわたるデフレ経済下で経済成長が鈍化したのに対し、中国やインド等の新興国の経済は急成長した結果、世界における日本の輸入国としての地位は低下し、必要な食料や農業生産資材を容易に輸入できる状況ではなくなりつつあります。



■ 世界人口と穀物生産量の見通し

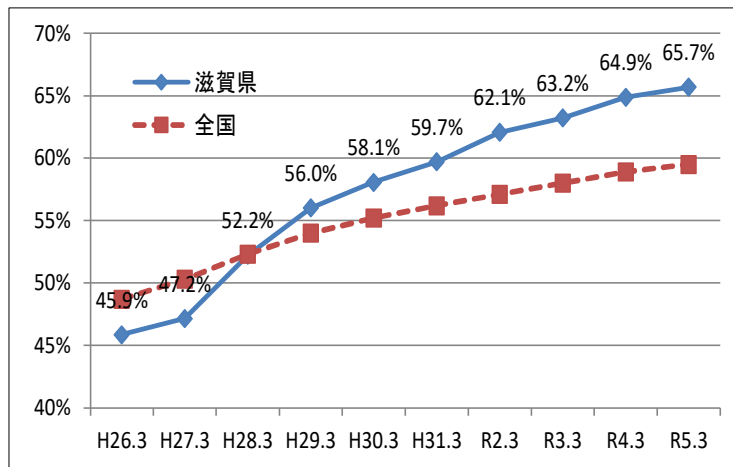


■ 主要国におけるGDPデフレーター(1998年を100とする指数)

出典：令和5年度 食料・農業・農村の動向

このような世界情勢の中、国においては、食料安全保障に係る地政学的リスクの高まりや、農山漁村での人口減少とそれに伴うコミュニティ機能衰退への懸念、さらにはSDGs(持続可能な開発目標)の取組・意識の高まり等を踏まえて、令和6年(2024年)5月 農政の憲法ともいわれる「食料・農業・農村基本法」の四半世紀ぶりとなる改正が行われました。

また、本県においても、担い手への農地集積・集約化が進む一方、農村における地域コミュニティ機能の低下、不安定な国際情勢を受けた肥料・資材価格の高騰、さらには賃金上昇に伴う産業分野間での人材獲得競争の激化など、新たな課題も健在化してきたところです。



■担い手への農地集積率の推移 (出典：滋賀県)

区分 年度	時間額 (円)	引上額 (円)	引上率 (%)	発効日	備考
平成14年度	651	0	0.00	—	改正なし
平成15年度	651	0	0.00	—	改正なし
平成16年度	652	1	0.15	H16.10.1	
平成17年度	657	5	0.77	H17.10.1	
平成18年度	662	5	0.76	H18.10.1	
平成19年度	677	15	2.27	H19.10.25	
平成20年度	691	14	2.07	H20.10.18	
平成21年度	693	2	0.29	H21.10.1	
平成22年度	706	13	1.88	H22.10.21	
平成23年度	709	3	0.42	H23.10.20	
平成24年度	716	7	0.99	H24.10.6	
平成25年度	730	14	1.96	H25.10.25	
平成26年度	746	16	2.19	H26.10.9	
平成27年度	764	18	2.41	H27.10.8	
平成28年度	788	24	3.14	H28.10.6	
平成29年度	813	25	3.17	H29.10.5	
平成30年度	839	26	3.20	H30.10.1	
令和元年度	866	27	3.22	R1.10.3	
令和2年度	868	2	0.23	R2.10.1	
令和3年度	896	28	3.23	R3.10.1	
令和4年度	927	31	3.46	R4.10.6	
令和5年度	967	40	4.31	R5.10.1	

■滋賀県最低賃金改定状況一覧 (年度別推移)

出典：厚生労働省

「滋賀県農業・水産業基本計画」(以下「計画」という。))は、このような状況の変化を踏まえ、今後の本県農業・水産業の中期的な施策の展開方向を示す計画として策定するものです。

2 性格

本計画は、滋賀県基本構想(平成31年(2019年)3月)を上位計画とする、農政水産部門の最上位計画です。本県農政の総合的な指針として、10年後(2035年)の本県農業・水産業の目指す姿を描きます。基本的な方向を示すことによって、生産者をはじめとする県民、市町・関係機関等と県とが基本理念を共有し、一緒に取組を進めていくことを目指します。

また、計画に基づく取り組みをすすめることにより、SDGsおよびMLGsの目標達成に貢献するとともに、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」をはじめとした本県農業・水産業を次世代に引き継ぐことを目指しています。

3 計画期間

目指す姿は10年後(2035年)を描き、計画期間は、社会・経済情勢の変化や政策を進めるうえでの不確実性等を考慮して、令和8年度(2026年)から令和12年度(2030年)までの5年間とします。

4 計画の構成

本計画は、本編(第1章～第4章)と参考資料で構成しています。

第1章では、本計画を推進していく基本的な考え方である「基本理念」を定め、第2章では基本理念を念頭に置いた「目指す2035年の姿」を描いています。

第3章「政策の方向性」では、第2章で描いた目指す2035年の姿の詳細と「基本理念」のつながり、目指す姿の実現に向けた県の具体的施策を示しています。

第4章では、本計画をより効果的・効率的に推進するための「政策の推進方法」を示しています。

参考資料では、社会情勢等の変化とそれに伴う本県農業・水産業への影響、今後必要とされる取組と具体的施策との関係等、本編(第1章～第4章)に記述している内容の根拠となる資料等を掲載しています。

第1章 基本理念

基本理念

（仮）つながり、つづく、しがの農業・水産業
～滋賀の食で、広がる豊かさ～



（基本理念イメージ）

人口減少や高齢化、気候変動、物価高騰など滋賀の農山漁村をとりまく情勢が大きく変化する中、
「命」の源となる「食」を創る礎である本県農業・水産業を次世代に引き継ぐためには、

これまで以上に「生産者」、「流通・小売事業者」、「消費者」の立場や世代を超えて
心を通わせ、協力し、互いを尊びながら、
つながることが必要です。

このつながりが広がることで、滋賀の食が未来へと続き、
人、経済、社会、環境の「豊かさ」が広がり
農業・水産業の営みがつづいていきます。

人口減少が農村漁村で先行することが想定される中、農業者・漁業者の減少による生産力の低下、地域コミュニティ機能の低下が懸念される中、国際連合食糧農業機関から「世界農業遺産」に認定された「琵琶湖システム」を次世代に引き継ぐことは、私たちの世代の重要な責務であります。

一方、世界では、エネルギー価格の高騰、気候変動、国際的な紛争等による複合的なリスクが混在化している中、輸入依存度の高い日本においては食料供給に深刻な影響を及ぼす可能性があります。

そのため、これまで以上に立場の異なる人々が、心を通わせ、協力し、互いに尊びながら、つながり、広がることで、「滋賀の食」が未来へと続き、人々の豊かさを生み出せるよう、本計画では、『つながり、つづく、しがの農林水産業～滋賀の食で、広がる豊かさ～』を基本理念として定め、滋賀県農業・水産業が目指す 2035年の姿の実現に向けた施策の展開方向を示します。

■基本理念の背景

令和4年(2022年)7月18日、農業と漁業の複合的な営みにより、1,000 年以上にわたって受け継がれてきた「森・里・湖」に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム(以下、「琵琶湖システム」という。))が国際連合食糧農業機関から「世界農業遺産」に認定されました。

これは、環境と調和した本県農業・水産業の営みと、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが、世界に認められると同時に貴重な世界的財産であると証明されたことであり、この時代を生きる私たちが、先人の努力によって培われた琵琶湖と共生する農業・水産業を次世代へ健全な形で引き継ぐための重要な責務を担ったことに他なりません。

しかしながら、国内の人口減少に先駆け、農山漁村で人口減少・高齢化が進展していくことが想定されるなか、今よりも相当程度少ない担い手が生産を担う必要が生じてきています。例えば、本県の担い手への農地集積率は、農地中間管理機構 開始時(H26 年(2014 年)4月)の45.9%から、10 年間で67.8%(R6 年(2024 年3月))と大きく増えています。また、農山漁村における地域コミュニティの維持や農業インフラの機能確保に向けた都市住民等と農業・農村との関わりである「関係人口」の創出が重要になってきています。

また、世界に目を向けると、世界的な人口増加と経済成長に伴い、食料のほか肥料等の生産資材の需要が増加し、それらの獲得競争も激化しています。そのため、エネルギー価格の高騰、気候変動、国際的な紛争等によるリスクが生じた際には、国際的な競争によって、食料等の価格は上昇し、安定的な輸入にも影響が生じることが予測されます。これは小麦・大豆等をはじめとした食料や、肥料・飼料等生産資材の多くを輸入に依存している日本、ひいては本県にとって深刻な影響を及ぼす可能性があります。

一方、近年では SDGs(持続可能な開発目標)の取組・意識が広く浸透し、農業・水産業の生産活動においても、環境への負荷を最小限にする取組が求められるようになりました。各国・地域において持続可能な農業を主流化する政策の導入が進み、令和4年(2022年)には「みどりの食料システム法」が国において制定されるなど、本県がこれまで推進してきた「環境こだわり農業」の取組を後押しするような潮流も生まれてきています。

このような社会情勢の変化の中、これまで進めてきた「地域自給力(つくる力)の向上」、「農業・農村への誘導」、「県産農畜水産物の消費拡大」の取組をさらに推進するとともに、農山漁村の人口減少が強く懸念される状況を踏まえ、例えば、これまでよりも広域で生産者どうしが協力して地域を守り・農産物を生産し、流通関係事業者が生産された農産物の思いや背景が詰まった商品を販売し、消費者自身が食したり、生産現場を体験し、発信して新しい「滋賀の食」のファンを創る、といった「生産者」、「流通・小売事業者」、「消費者」の立場や世代を超えて、心を通わせ、協力し、互いを尊びながら、つながっていくことが必要です。

このつながりが広がることで、滋賀の食が未来へと続き、人、経済、社会、環境の「豊かさ」が広がり農業・水産業の営みがつくづくことを目指して政策を推進していきます。

このような背景から私たちはこの基本理念を定めました。

(仮)つながり、つづく、しがの農業・水産業
～滋賀の食で、広がる豊かさ～

第2章 目指す 2035年の姿

私たちは基本理念を念頭に置き、**滋賀県農業・水産業の目指す 10 年後(2035年)の姿**を、「人」・「経済」・「社会」・「環境」の**4つの視点**から描きます。

共通視点「人」「担い手、支え手、ファンの拡大」

視点「経済」「食の礎を担う力強い農業・水産業」

視点「社会」「多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村」

視点「環境」「琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業」

目指す 2035 年のイメージ図

この目指す姿は、農業・水産業に関わる「人」を土台としながら、「経済」・「社会」・「環境」の調和を進める取組であり、SDGs※および MLGs※の達成にも貢献するものです。

私たちは、この姿を目指すことにより、「琵琶湖システム」を保全し、その価値や魅力をより一層高めます。



図 SDGs ロゴマーク



図 MLGs ロゴマーク



図 琵琶湖システム ロゴマーク

1 共通視点・「人」 「担い手、支え手、ファンの拡大」

基本理念「つながり、つづく、しがの農業・水産業」は、立場の異なる多様な人が「滋賀の食」を通じてつながることで、豊かさが広がり、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」をはじめとした本県農業・水産業が次世代へとつづいていく姿を描いています。この実現には、これまで以上に生産から消費に関わる「人」のつながりを拡大することが必要不可欠であり、「人」は、「経済」・「社会」・「環境」の目指す姿を実現する上で最も重要な共通視点といえます。

これらのことから、私たちは、「人」の視点において、「担い手、支え手、ファンの拡大」を主題とし、農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている姿を目指します。

滋賀の風土や環境を活かした農業・水産業が担い手を中心に営まれ、流通・小売事業者や観光事業者等を通じて生産者の取組や農山漁村の価値や魅力と併せて「滋賀の食」を広く消費者に届けることで、すすんで購入したり、体験等を通じてファンとなる。こうした食や体験を通じて、滋賀の農業・水産業に携わる人と消費者・ファンの絆が深まり、その輪が広がる姿を目指します。

今後の社会情勢の変化においては人口減少や労働人口の減少が確実に見込まれ、とりわけ農山漁村の人口減少が先行することが想定される中、農業・水産業において、担い手をいかに増やしていくかが喫緊の課題であることから、「担い手」の確保・育成に向けた取組を進めます。

また、コロナ禍によって始まった企業等でのテレワークも定着しつつあり、これまで以上に多様な人が農業・漁業、農山漁村に関心を持たれていることから、都市住民と農村・漁村の交流機会、農業・漁業体験等、SNS 等による情報発信による「ファン」の拡大に向けた取組を進めます。

さらに、食育や農業・水産業体験、「滋賀の食」を通じてファンとなった人が、その関心をさらに進め、農業・水産業の担い手や農山漁村を「支える人」となるような取組や、障害等を持つ人が「農業」を通じていきいきと暮らし、ともに働くことができる姿を増やす等、農業・水産業、農山漁村を支える「多様な人材」の確保に向けた取組を進めます。

これらの取組を総合的に進めることで、農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、これまでに以上に誰もが農業・水産業との関わりを身近に感じられるようになります。

2 視点「経済」「食の礎を担う力強い農業・水産業」

私たちは、**滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている姿**を目指します。

農業・水産業を取り巻く経済環境は、国内の人口減少に伴う人材獲得競争の激化、原材料や輸入資材価格の高騰、世界人口の増加による農畜水産物の輸出需要の高まりなど、今後も大きく変化していくことが想定されます。

そうした中、今後も「食」を通じた安心と幸せを県民に届け**つづける**ためには、生産者を中心とした農業・水産業に関わる誰もが、「農業・水産業で豊かになれる」と感じる「経済的な将来性」と、中長期的な視点を持って積極的に挑戦できる「経済的な余裕」を獲得できる、農業・水産業の**力強さ**が必要です。

その実現に向け、担い手の経営体質の強化や、需要の変化に対応できる生産力の確保、さらには、世界に認められた「琵琶湖システム」や地理的・歴史的な消費地との結びつきなど、数多くの「**滋賀の強み**」を最大限に生かした生産振興と消費喚起を行うことで、生産と消費者等の強固な**つながり**を形成し、**滋賀の農畜水産物が優先的に選ばれつづける**ための取組を進めます。

これらの取組を総合的にすすめることで、**滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業を営む担い手を育成**します。

3 視点「社会」「多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村」

私たちは、多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する農山漁村に賑わいが生まれ、農地や農山漁村の価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している姿を目指します。

農山漁村は、食料の生産だけでなく、国土の保全や水源涵養、その地域ならではの風景を作り、そこに住む人や訪れる人への心のやすらぎを提供するなど多面的な機能を有しています。とりわけ、滋賀の農山漁村は琵琶湖を中心とした「琵琶湖システム」の中で森・里・湖が^{うみ}つながり、独自の食文化や伝統文化を育み、多様な人の関わりのもと現在までつづいてきました。

しかしながら、近年の人口減少や都市部への人口流出により、農山漁村が果たしている役割に対して、その恩恵を受けていること自体を認識する人が減っており、生産基盤となる農業水利施設や農地、漁港、船溜りなどの維持も困難になってきています。

「世界農業遺産」に認定された「琵琶湖システム」は、環境と調和した本県農業・水産業の営みと併せて、それに関わって育まれた文化や景観など、私たちの生活である農村風景も含めて貴重な世界的財産であるとされたことから、この風景を健全な形で次世代に引き継ぐために、農村地域の人も含めて地域外の多様な人が関わる必要があります。

そのためには、地域が中心となって多様な主体との連携によって農業・水産業の生産基盤が保全・継承される取組を進めます。さらに、企業、大学や旅行業などの異業種などの主体との連携強化で農山漁村の暮らしに維持・活性化が進められるように取組を進めます。

これらの取組を総合的にすすめることで、若者や県外からの移住者、来訪者、企業等と農山漁村の交流や協働が進み、これまでにない新たな価値やチャレンジが生まれやすい環境が創られ、農山漁村に愛着や郷土愛が生まれ、誰もがその恩恵を感じられるようになります。

4 視点「環境」 「琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業」

私たちは、気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和し「琵琶湖システム」が次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている姿を目指します。

「暮らしを写す鏡」と言われる琵琶湖の存在が、本県では早くから生業と環境保全の両立への取り組みを喚起させ、農業・水産業においては、環境と調和した本県農林水産業の営みが、「世界農業遺産」としても認定を受けました。

現在、SDGs(持続可能な開発目標)の取組・意識が広く浸透し、令和6年(2024年)5月の「食料・農業・農村基本法」の改正においても「環境と調和のとれた食料システムの確立」が新たに加えられるなどの潮流のなか、これまでの本県の強みとなる環境と調和した農業・水産業の取組をさらに発展させることが必要であるとともに、気候変動による異常気象の頻発に起因する「リスクへの対応」もその重要性が高まっています。

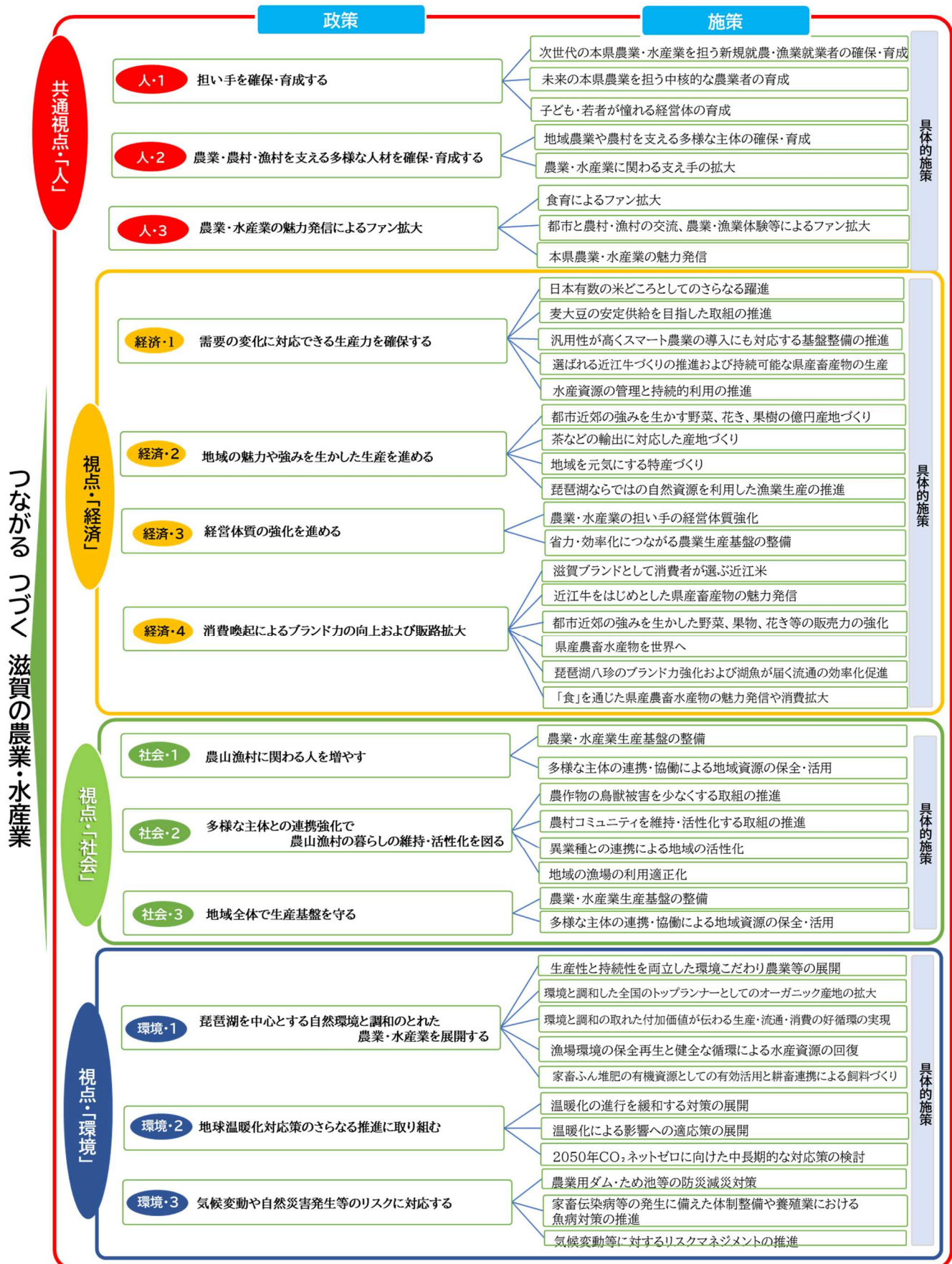
目指す姿の実現に向けては、琵琶湖を中心とした自然環境と調和のとれた農業・水産業の取組をさらに高めるために、オーガニック農業や、資源管理型の漁業などの推進に取り組みます。併せて、その価値が消費者に届き、生産・流通・消費の好循環が実現できるような施策を進めます。

また、気候変動の影響などにも対応でき、安定して県産農畜水産物が提供できる技術の開発や普及、温暖化の進行を緩和できる取組の推進、加えて2050年 CO2 ネットゼロに向けた中長期的な対応策の調査・検討にも取り組みます。

これらの取組を総合的にすすめることで、琵琶湖を中心とした自然環境と調和のとれた農業・水産業が次世代に引き継がれ、安定した県産農畜水産物を食することができるようになり、生産者をはじめとする誰もが、これらの取組を誇りに感じるようになります。

第3章 政策の方向性

1. 目指す2035年の姿と県の施策の一覧図



2. 目指す 2035年の姿の詳細と県の具体的施策

基本理念 つながり つづく 滋賀の農業・水産業(仮) を念頭に置いた「目指す 2035 年の姿」の詳細と、その姿の実現に向けた県の具体的施策を示します。

(1)共通視点「人」 農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている

人・1 担い手を確保・育成する

目指す 2035 年の姿

農業・水産業の担い手や、地域を支える人材が確保・育成され、世代や地域を超えたつながりが深まることで、農業・水産業の営みがつづいていく体制が構築されています。また、子どもや若者にとって魅力的な経営体が数多く生まれ、就職先としての農業・水産業の魅力が高まることで、子ども・若者にとって農業・水産業がより身近な存在となっています。

※各具体的施策には担当課の略称を記載しております

【農政】農政課、【み】みらいの農業振興課、【畜】畜産課、

【水】水産課、【耕・農村】耕地課・農村振興課

目指す姿の実現に向けた具体的施策

次世代の本県農業・水産業を担う新規就農者、新規漁業就業者が安心して就農・就業できることは勿論、その後の定着から安定した経営の継続に至るまでの継続的な支援を行います。また、地域の中核となる人材や女性経営者の育成を進めると共に、子供や若者が憧れる経営体の育成に向け、経営発展や規模拡大への支援を行います。

① 次世代の本県農業・水産業を担う新規就農者・漁業就業者の確保・育成

[農業]

- 教育機関との連携強化による高校生や大学生等に対する就農意欲の喚起【み】
- 「たんぼのこ」や学校給食による農業の理解促進 【人・3から再掲】【み】
- 円滑な就農に向けた就農・就職等の情報提供や相談活動の推進【み】【畜】
- 就農希望者向けの基礎講座や短期農業体験等の推進【み】
- 農業大学校における専門技術や経営に関する学習の充実と就農支援【み】
- 農業大学校や先進経営体での就農前研修に対する経済支援【み】
- 新規就農者の早期経営安定のための技術経営指導や経営開始初期の経済支援【み】
- 農業法人等への就農を促進するためのマッチング支援【み】
- 農業高校や農業大学校と連携した畜産の専門的な学びの場の提供【畜】

[水産業]

- 漁業就業希望者の相談窓口業務および体験・技術習得研修の充実【水】
- 新規漁業就業者の一人立ちに必要な漁労に要する経費を支援【水】
- 市町との連携による新規漁業就業者の移住を支援【水】
- 漁業共済の加入促進 【経済・3から再掲】【水】
- 融資制度の運用と漁船・漁具のあっせん等により漁業経営の安定化を支援 【経済・3から再掲】【水】
- 担い手に寄り添う水産業普及指導員の活動体制を強化 【経済・3から再掲】【水】

- 412 ● 効率的漁法の導入と実践支援および関連する漁業制度の整備【経済・3から再掲】【水】
- 413 ● 漁協が実施する指導事業・販売事業等を支援【経済・3から再掲】【水】
- 414 ● 漁船リース事業の導入【経済・3から再掲】【水】

415

416 ② 未来の本県農業を担う中核的な農業者の育成

- 417 ● 地域計画をベースにした広域での担い手の話し合いの推進【み】
- 418 ● 農地中間管理機構を活用した担い手への農地の集積・集約化の推進【み】
- 419 ● 集落営農組織の人材確保・育成支援と経営力の強化【み】
- 420 ● 意欲ある女性農業者の育成と経営参画の推進【み】【畜】
- 421 ● 女性農業者等のネットワークの構築支援【み】

422

423 ③ 子ども・若者など誰もが憧れる経営体の育成

- 424 ● 雇用拡大を図る担い手の育成のための専門家を活用した高度な経営課題の解決支援【み】
- 425 ● 農業法人における就職就農者の定着率向上に向けた支援【み】
- 426 ● 若手農業者の経営力向上に向けたスキルアップ支援【み】
- 427 ● 新商品・販路開拓等付加価値向上の取組(6次産業化)【経済・2から再掲】【み】
- 428 ● 農業への企業参入支援【み】
- 429 ● 外国人材や短期労働者等の活用支援【み】
- 430 ● 国際水準 GAP の認証取得支援【み】
- 431 ● 機械・施設等の導入による生産性の向上【み】
- 432 ● 機械の自動操舵や環境制御等のスマート農業の導入支援【み】
- 433 ● スマート農業に関する試験研究の推進【み】
- 434 ● 経営の形態や規模に応じた、省力化機械やICT機器の計画的な導入を推進【経済・3から再掲】【畜】

435

436 令和12年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
1	自営就農者数	人		
2	就職就農者数	人		
3	農地の集積率	%		
4	広域での集積・集約化等に取り組む地域数	地域数		
5	農業法人数(個別経営、集落営農、企業等)	経営体		
6	女性の認定農業者数	人		
7	新規漁業就業者数	人		

437

438

439

人・2 農業・農村・漁村を支える多様な人材を確保・育成する

目指す 2035 年の姿

地域内において農業・農村・漁村を支える多様な人材が確保・育成され、それぞれの能力を活かして地域の活性化や課題解決に貢献しています。生産の中心的な担い手と地域を支える多様な人材がつながり、互いに連携することで、地域の営みが将来にわたってつづいていく体制が構築されています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

中山間地域等における活動組織・体制づくりの推進や、集落と企業・大学等との共同活動への支援等により、地域農業や農村・漁村を支える多様な主体の確保・育成に取り組めます。また、半農半Xや農福連携の推進、農業高校生の学びや漁村女性の活躍に対する支援等により、農業・水産業に関わる多様な支え手の拡大を図ります。

① 地域農業や農村を支える多様な主体の確保・育成

- 集落内外の組織や非農家の住民との更なる連携、活動組織の広域化等を図りながら、地域資源（農地・水路・農道等）の共同保全活動を支援【社会・3から再掲】【耕・農村】
- 複数の集落間での活動の連携（ネットワーク化）や統合、企業・大学等の多様な組織の活動参画等、体制づくりを図りながら、中山間地域の農業生産活動の継続や地域活性化を支援【社会・2から再掲】【耕・農村】
- 農村地域との交流を通じた地域外の学生や社会人等の関係・交流人口の創出と移住・二地域居住等の推進【社会・1から再掲】【耕・農村】

② 農業・水産業に関わる支え手の拡大

- 半農半Xを含めた多様な人材による地域特産物の普及拡大による地域活性化【み】
- 「しがの農×福ネットワーク」による情報発信および農業者と福祉事業者等とのマッチングの推進【み】
- 家畜人工授精師、酪農ヘルパー等の畜産関係技術者の育成支援、技術向上【畜】
- 漁村女性の活躍や浜の活性化に資する取組を支援【水】
- 市町による漁村活性化を支援【社会・2から再掲】【水】
- 消費者等による漁村応援活動を促進【社会・1に再掲】【水】
- 「浜の活力再生プラン（浜プラン）」の作成と実践を支援【社会・2から再掲】【水】
- 漁船や漁具・漁網など関連事業者を確保【経済・1に再掲】【水】

478 令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
8	実行中の「浜プラン」策定地区数	地区		
37	中山間地域等直接支払制度での ネットワーク化計画の策定率 【社会・2から再掲】	%		

479

480

人・3 農業・水産業の魅力発信によるファン拡大

目指す 2035 年の姿

本県農業・水産業の魅力が、子ども・若者を含む多くの消費者に伝わることで、県産農畜水産物や農山漁村に愛着と喜びを感じ、それらをすすんで学び、体験し、購入するファンが拡大しています。またファンの存在が生産者の励みになり、互いを理解し支えるつながりが、将来にわたってつづいています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

学校等と連携した子ども・若者への食育推進や、農山村地域での体験を通じた都市住民等との交流拡大により農業・水産業の魅力発信を図ります。また世界農業遺産「琵琶湖システム」を活用した情報発信や PR イベントの実施等による、農業・水産業のファン拡大および関係人口の増加に向けた取組を進めます。

① 食育によるファン拡大

- 「たんぼのこ」等の農業体験や茶の淹れ方教室を通じた食育や茶育の推進【み】
- 学校給食を通じた地産地消の理解促進【み】【水】
- 高校生や大学生等に対する農業者による出前講座【み】
- 子どもたちやその家族等への食育活動を通じた近江米の消費拡大【み】
- ふれあい牧場や出前授業等を通じた畜産への理解醸成・食育の推進【畜】
- 学校等における漁業体験学習や魚の放流体験学習等の活性化に対する支援【社会・1に再掲】【水】
- 消費者や観光客等に向けた湖魚の取扱情報や魅力の発信【水】【農政】

② 都市と農村・漁村の交流、農業・漁業体験等によるファン拡大

- 多様な主体が実施するふなずし漬け方講習会の開催を支援【水】【農政】
- 漁協等が実施する漁業体験等の開催を促進【水】
- 河川漁協が実施する釣り教室等による遊漁人口拡大の取組を支援【社会・1に再掲】【水】
- 地域の特色を生かした湖業（うみぎょう）の展開を支援【社会・1から再掲】【水】
- 農村地域での魅力的な体験プログラムの提供や情報発信による、都市住民や訪日外国人等の関係交流人口の創出やファン拡大【社会・1に再掲】【耕・農村】【農政】
- 旅行業・飲食業等の多様な企業とも連携した、世界農業遺産「琵琶湖システム」を体感できる滋賀県ならではの農泊「しがのアグリツーリズム」の推進【社会・2から再掲】【耕・農村】【農政】
- 棚田の魅力発信等による棚田ボランティア等の関係・交流人口の創出を促進【社会・1から再掲】【耕・農村】
- 「琵琶湖システム」を体感する機会の創出やHP・SNS等の活用による「食」「体験」への誘導【農政】
- 「琵琶湖システム」や農山漁村の魅力発信【農政】

③ 本県農業・水産業の魅力発信

- ホームページや SNS を活用した県産農畜水産物やその加工品の魅力発信と販路拡大【み】
- 飲食店等におけるフェア、イベント等を活用した県産農畜水産物の魅力発信と販路拡大【み】【農政】
- 商工・観光業とも連携した近江牛の県内外へ向けた魅力発信 【経済・4から再掲】【畜】
- 琵琶湖八珍マイスターとの連携強化による湖魚のイメージ向上と消費者への利用訴求 【経済・4から再掲】【水】
- 観光関連事業者等との連携による湖魚消費喚起 【経済・4から再掲】【水】
- 商業施設等での PR イベントや現地ツアーによる「魚のゆりかご水田米」・「棚田米」の魅力発信【経済・4から再掲】【耕・農村】【農政】
- 県HP「グリーンツーリズム滋賀」による都市農村交流施設の魅力発信【耕・農村】
- 出前講座や学校との連携による「琵琶湖システム」を学ぶ場の創出や認知度の向上【農政】
- 企業や学生など多様な主体等との連携による「琵琶湖システム」が育む食材などの魅力発信【経済・4に再掲】【農政】
- HP やSNSを活用した「琵琶湖システム」が生み出す「食」や「景観」、「生業」等の魅力発信と理解の促進【経済・4に再掲】【農政】

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
9	農畜水産物 PR に関する県運営の SNS フォロワー数	人		
10	おいしがうれしがキャンペーン登録事業者数(生産者を除く)	事業者		
11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合	%		
38	県農泊ネットワーク組織に加入した農泊予定地域数【社会・2から再掲】	地域		
34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【社会・1から再掲】	人		

(2)視点「経済」 滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている

経済・1 需要の変化に対応できる生産力を確保する

目指す 2035 年の姿

滋賀の農業・水産業が、優れた技術の活用や関わる人々の連携によって、高い生産力を獲得しています。高められた生産力は、常に移り変わる需要への対応力を生み出し、消費者や実需者に選ばれる産地を形成します。需要に応え続けることは、生産と消費のつながりを強め、持続的で力強い農業・水産業の営みがつついていきます。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

収量・品質の向上や耕畜連携の推進による「米どころ」としての更なる地位向上、契約に基づく生産の維持・拡大等による麦・大豆の安定供給に向けた取組を進めると共に、スマート農業に対応できる基盤整備に取り組みます。加えて、近江牛をはじめとした県産畜産物の持続的な生産や、水産資源の管理と持続的な利用を推進します。

① 日本有数の米どころとしてのさらなる躍進

- 新たな需要の開拓に対応した主食用米の生産量の拡大【み】
- 気候変動に対応した主食用米、酒米の収量品質の向上【み】
- 「みずかがみ」「きらみずき」などオリジナル品種の生産拡大【み】
- オーガニック「きらみずき」の生産拡大【環境・1から再掲】【み】
- 未来の需要を見据えた品種育成【み】
- 水田輪作体系の技術開発【み】

② 麦大豆の安定供給を目指した取組の推進

- 契約に基づく生産の維持拡大【み】
- 麦大豆の収量・品質・安定生産の確保【み】
- パン用小麦の導入【み】
- 気候変動に対応した大豆栽培技術の確立・推進【み】
- 大豆の品種選定等にかかる試験研究【み】

③ 汎用性が高くスマート農業の導入にも対応する基盤整備の推進

- 作業効率の向上や、自動直進トラクタ等の導入を推進するほ場の大区画化【耕・農村】
- 維持管理の省力化に資する ICT 技術(自動草刈り機等)の導入を推進するための拡幅畦畔、畦畔法面の緩傾斜化や、末端用排水路の管渠化【耕・農村】
- 水管理の省力化に資する ICT 技術(自動給水栓等)の導入【耕・農村】

④ 選ばれる近江牛づくりの推進および持続可能な県産畜産物の生産

- 「牛よし、人よし、社会よし」の三方よしの近江牛生産による選ばれる近江牛づくりの推進【畜】
- 和牛子牛の地域内一貫生産の推進【畜】

- 578 ● 高能力で繁殖性の良い繁殖雌牛群の整備支援【畜】
- 579 ● 畜産クラスター 等の取組による地域関係者の連携推進【畜】
- 580 ● 滋賀県産牛乳の安定生産を推進【畜】
- 581 ● 近江しゃもの安定供給体制の推進【畜】
- 582 ● 地産地消を柱とした良質で安全・安心な養鶏・養豚の振興【畜】
- 583
- 584 ⑤ 水産資源の管理と持続的利用の推進
- 585 ● 気候変動や漁場生産力、資源状況をふまえた重要魚介類の種苗放流の推進 【環境・2に再掲】【水】
- 586 ● 老朽化した種苗生産施設の機能維持を図るための適切な点検整備や改修【水】
- 587 ● 漁獲情報を電子情報として日々収集・集計する漁獲情報システムの運用【水】
- 588 ● 漁獲量等の情報から主要魚介類の速やかな資源評価の実施【水】
- 589 ● 資源評価に基づく資源管理型漁業の促進【水】
- 590 ● 遊漁による漁場と資源の利用調整と適正化を推進 【環境・1から再掲】【水】
- 591 ● 漁船や漁具・漁網など関連事業者を確保 【人・2から再掲】【水】
- 592
- 593
- 594

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
12	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア	%		
13	滋賀県産米(うるち玄米)の一等米比率(西日本での順位)	%(順位)		
14	麦の単収	kg/10a		
15	大豆の単収	kg/10a		
16	近江牛の飼養頭数	頭		
17	和牛子牛の県内出生頭数	頭		
18	琵琶湖の漁獲量(外来魚除く)	トン		
19	資源管理方針の目標達成魚種数	魚種		
20	大区画ほ場整備率(50a 以上)	ha	7.1%(R3 実績)	9.0%(R10 実績)

595
596
597
598
599

経済・2 地域の魅力や強みを生かした生産を進める

目指す 2035 年の姿

多くの生産者や関係者の強固なつながりによって、地域ならではの魅力や強みを生かした生産が進められ、地域内外からの高い評価を獲得しています。それぞれの産品や取組を通じて生まれた新たなつながりは、地域への人材の流入や需要の増大等、取組の継続・発展を促す推進力となり、地域の魅力や強みが磨かれつづける好循環が生まれています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

都市近郊という滋賀県の強みを生かした野菜・花き・果樹の市場出荷型および観光型産地の育成を進めると共に、湖魚や魚のゆりかご水田、伝統野菜等、滋賀県にしかない産品の生産力・付加価値の向上に取り組めます。加えて、輸出に対応した産地や地域の特産づくりなど、地域の魅力や強みを生かす新たな取組を進めます。

① 都市近郊の強みを生かす野菜、花き、果樹の億円産地づくり

- 実需者との連携強化による「億円産地」の育成【み】
- オリジナルいちご品種「みおしずく」の生産拡大【み】
- 中核的園芸産地の再生【み】
- 新品種の育成(イチゴ)や生産性を高める技術開発【み】
- 水田を活用した果樹の生産拡大【み】

② 茶などの輸出に対応した産地づくり

- 輸出促進協議会と連携した輸出向け産地の育成【み】
- 特色のあるオーガニック茶の開発と生産拡大【み】

③ 地域を元気にする特産づくり

- 新商品開発・販路開拓等付加価値向上の取組(6次産業化)【み】
- 学校給食における地場産の活用促進
- 新たな地域特産づくり(オリーブ等)【み】
- 「魚のゆりかご水田」をはじめとする豊かな生き物を育む水田の普及拡大【環境・1から再掲】【耕・農村】【農政】
- 認知度向上や魅力を伝えるための琵琶湖システム関連商品等の開発および販売【農政】

④ 琵琶湖ならではの自然資源を利用した漁業生産の推進

- 資源評価に基づく水産資源の最大利用を推進【水】
- ヒウオの鮮魚利用の促進【水】
- 未利用水産資源(ニゴイ等)の有効活用を促進【水】
- 琵琶湖産アユ、ビワマス(びわサーモン)、淡水真珠等、地域特産種の養殖業を振興【水】
- 琵琶湖の漁場生産力を活かした湖中養殖業を推進【水】
- 本県水産物の魅力や付加価値の向上、流通促進につながる商品開発や水産加工の高度化の促進【水】

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
21	1 億円以上の売り上げを維持または目指す産地・経営体数(野菜、花き、果樹)	産地または経営体数		
22	みおしずくの栽培面積	ha		
23	オーガニック茶栽培面積	ha		
24	学校給食における地場産利用を拡大する取組のモデル数	カ所		
25	養殖ビワマス生産量	トン		
49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【環境・1から再掲】	地区		

経済・3 経営体質の強化を進める

目指す 2035 年の姿

スマート農業をはじめとする先端技術の導入や管理能力の向上によって、担い手自身の経営体質が強化されると共に、省力・効率化をもたらす生産基盤や担い手の生産を支援する体制等が整備されています。

担い手は強固な経営体質と整った生産基盤の下、中長期的な視点を持って積極的に挑戦できる経済的余力を獲得し、将来にわたって安定的に経営をつづける体制が構築されています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

スマート農業等の技術導入による生産性の向上や、経営体のマネジメント力強化、団体再編による組織力強化等により、農業・水産業の担い手の経営体質の強化を図る。また、農地のフル活用に資する農業水利施設の整備更新や農地の基盤整備、スマート農業に対応した農地の基盤整備等、省力・効率化につながる農業生産基盤の整備に取り組む。

① 農業・水産業の担い手の経営体質強化

【農業】

- スマート農業機械・施設等の導入による生産性の向上【み】
- 機械の自動操舵や施設の環境制御等のスマート農業の導入支援【み】
- スマート農業に関する試験研究の推進【み】
- 雇用拡大を図る担い手の育成のための専門家を活用した高度な経営課題の解決支援【人・1から再掲】【み】
- 農業法人における就職就農者の定着率向上に向けた研修等【人・1から再掲】【み】
- 若手農業者の経営力向上に向けたスキルアップ支援【人・1から再掲】【み】
- 新商品・販路開拓等付加価値向上の取組(6次産業化)【経済・2から再掲】
- 外国人材や短期労働者等の活用支援【人・1から再掲】【み】
- 国際水準 GAP の認証取得の支援【人・1から再掲】【み】
- 経営の形態や規模に応じた、省力化機械やICT機器の計画的な導入を推進【畜】
- 酪農ヘルパーや作業受託組織など、外部支援組織の活用の推進【畜】

【水産業】

- 漁業団体の再編による組織強化と機能の充実の促進【水】
- 漁業共済の加入促進【人・1に再掲】【水】
- 融資制度の運用と漁船・漁具のあっせん等により漁業経営の安定化を支援【人・1に再掲】【水】
- 担い手に寄り添う水産業普及指導員の活動体制を強化【人・1に再掲】【水】
- 効率的漁法の導入と実践支援および関連する漁業制度の整備【人・1に再掲】【水】
- 漁協が実施する指導事業・販売事業等を支援【人・1に再掲】【水】
- 漁船リース事業の導入【人・1に再掲】【水】

- 682
- 683
- 684
- 685
- 686
- 687
- 688
- 689
- 690
- 691
- ② 省力・効率化につながる農業生産基盤の整備
- 作業効率の向上や、自動直進トラクタ等の導入を推進するほ場の大区画化【経済・1から再掲】【耕・農村】
- 水田の畑地利用や畑作物の品質・大型機械の作業効率の向上に資する暗渠等による排水改良【耕・農村】
- 維持管理の省力化に資する ICT 技術(自動草刈り機等)の導入を推進するための拡幅畦畔、畦畔法面の緩傾斜化や、用排水路の管渠化【経済・1から再掲】【耕・農村】
- 多様化する用水需要に対応した農業水利施設の管理システムの導入【耕・農村】
- 水管理の省力化に資する ICT 技術(自動給水栓等)の導入【経済・1から再掲】【耕・農村】

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
5	農業法人数【人・1から再掲】 (個別経営、集落営農、企業等)	経営体		
26	漁業共済加入経営体の平均水揚額	千円		
27	自動給水栓の設置面積	ha		

経済・4 消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大

目指す 2035 年の姿

生産者や産地が消費者や実需者の期待に応え続けることで、お互いの信頼が深まり、強固なつながりが形成されています。生産者と信頼で結ばれた消費者によって、県産農畜水産物は優先的に選ばれつづけ、安定した需要の下でブランド力が高まっています。向上したブランド力は更なる消費・販路の拡大をもたらし、より多くのつながりに支えられた滋賀の農業・水産業が、将来にわたってつづいていきます。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

県オリジナル品種の「きらみずき」「みずかがみ」を筆頭に、県を代表する農産物である「近江米」のさらなる消費拡大を図ります。イチゴ「みおしずく」をはじめとする園芸品目については、都市近郊の強みを生かし、市場流通の強化や地域内流通の構築等を進めます。また、近江牛や近江の茶等の輸出、GI や「琵琶湖八珍」等地域ブランド製品の育成・強化を図ると共に、「おいしがうれしが」や「滋賀の幸」等「食」の魅力発信を通じて県産農畜水産物の消費拡大を促進します。

① 滋賀ブランドとして消費者が選ぶ近江米

- 安全・安心・おいしい「近江米」の PR・消費拡大【み】
- 「みずかがみ」等の特 A 取得【み】
- 「きらみずき」の首都圏における新たな販路開拓と魅力発信【み】
- 本県独自の酒米品種の育成【み】
- 近江米の海外での販路開拓による輸出拡大【み】

② 近江牛をはじめとした県産畜産物の魅力発信

- 「牛よし、人よし、社会よし」の三方よしの近江牛生産による選ばれる近江牛づくりの推進【経済・1から再掲】【畜】
- 商工・観光業とも連携した近江牛の県内外へ向けた魅力発信【畜】
- 近江しゃものブランド力向上に向けた技術開発・普及【畜】
- 滋賀県産牛乳の安定生産を推進【経済・1から再掲】【畜】
- 地産地消を柱とした良質で安全・安心な養鶏・養豚の振興【経済・1から再掲】【畜】

③ 都市近郊の強みを生かした野菜、果物、花き等の販売力の強化

- いちご「みおしずく」のブランド化【み】
- 量販店や加工業務用等の需要に応じた市場流通等の強化【み】
- 直売所等の機能強化と地産地消の推進【み】
- 観光農園や農業体験等による地域の活性化【み】

④ 県産農畜水産物を世界へ

- 特色のあるオーガニック茶の開発と輸出の促進【み】
- 輸出促進協議会と連携した「滋賀の幸」の海外における販路開拓【み】

733

734

⑤ 琵琶湖八珍のブランド力強化および湖魚が届く流通の効率化促進

735

- 琵琶湖八珍マイスターとの連携強化による湖魚のイメージ向上と消費者への利用訴求【人・3に再掲】【水】

736

- 観光関連事業者等との連携による湖魚消費喚起【人・3に再掲】【水】

737

- 漁獲物の鮮度保持と規格化に取り組む漁業者を支援【水】

738

- 県域での琵琶湖産魚介類の集出荷体制の確立【水】

739

- 大都市圏への多様な流通経路の拡充を促進【水】

740

- ICT 等を活用した新たな流通・販路開拓の取組を支援【水】

741

742

⑥ 「食」を通じた県産農畜水産物の魅力発信や消費拡大

743

- 飲食店等におけるフェア、イベント等を活用した「滋賀の幸」の魅力発信と販路拡大【み】

744

- 食品関連事業者等と連携した県産農畜産物の魅力発信と消費拡大【み】

745

- GI の取得支援および GI を活用したブランド力の強化【み】

746

- 商業施設等での PR イベントや現地ツアーによる「魚のゆりかご水田米」・「棚田米」の魅力発信【人・3に再掲】【耕・農村】

747

【農政】

748

- 体感機会の創出やHP・SNS等の活用による「食」「体験」への誘導【人・3から再掲】【農政】

749

- 「琵琶湖システム」や農山漁村の魅力発信【人・3から再掲】【農政】

750

- 企業や学生など多様な主体等との連携による「琵琶湖システム」が育む食材などの魅力発信【人・3から再掲】【農政】

751

752

753

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
28	近江米(コシヒカリ)の相対取引価格 の西日本での順位	順位		
29	食味ランキングでの「特 A」取得品種 数	品種数		
30	輸出促進協議会構成団体の輸出額	千円		
31	「おいしが うれしが」キャンペーン登 録店舗数(首都圏)			
32	琵琶湖八珍マイスター登録件数	件		

754

755

756

757 (3)視点「社会」 多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値
758 が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している

759

760 社会・1 農山漁村に関わる人を増やす

761

762 目指す 2035 年の姿

763 滋賀の農山漁村が果たす機能やもたらす恩恵を認識し、様々な形で農山漁村とつながる人が増加しています。世代や分
764 野を超えた人々のつながりは、様々な活動や交流を生み出し、地域に賑わいと新たな価値をもたらしながら、次世代へとつ
765 づいていきます。

766

767 目指す姿の実現に向けた具体的施策

768 農村地域での農作業体験や短期滞在の機会提供、棚田ボランティア制度等により関係・交流人口の創出を進めます。ま
769 た、体験学習や漁業体験の活性化支援、湖魚の魅力発信、漁村への関係人口の拡大等により漁と魚と料理を堪能できる漁
770 村の創造に取り組めます。

771

772 ① 地域の魅力強化に向けた関係人口の創出

- 773 ● 棚田の魅力発信等による棚田ボランティア等の関係・交流人口の創出を促進【人・3に再掲】【耕・農村】
- 774 ● 農村地域との交流を通じた関係・交流人口の創出【人・2に再掲】
- 775 ● 農村地域との交流を通じた移住・二地域居住等の推進【人・2に再掲】
- 776 ● 農村地域での体験プログラムの提供や情報発信による、関係・交流人口の創出やファン拡大【人・3から再掲】

777

778 ② 漁と魚と料理を堪能できる漁村の創造

- 779 ● 学校等における漁業体験学習や魚の放流体験学習等の活性化に対する支援【人・3から再掲】【水】
- 780 ● 漁協等が実施する漁業体験等の開催を促進【人・3から再掲】【水】
- 781 ● 地域の特色を生かした湖業(うみぎょう)の展開を支援【人・3に再掲】【水】
- 782 ● 多様な主体との連携による漁村への関連人口の拡大(北の近江振興)【社会・2に再掲】【水】
- 783 ● 消費者等による漁村応援活動を促進【人・2から再掲】【水】

784

785

786 令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
33	河川漁協における遊漁者数(のべ)	人		
34	棚田ボランティアの年間参加延べ 人数【人・3に再掲】	人		

787

788

789

790

社会・2 多様な主体との連携強化で農山漁村の暮らしの維持・活性化を図る

目指す 2035 年の姿

これまでの農業や漁業の生業と地域資源を守る活動や食生活などの文化が密接につながる農山漁村の暮らしが維持されるとともに、女性や若者が活躍し、企業や大学等の多様な主体との連携・協働による、アグリツーリズムなどの新たな取り組みが始まり、多面的価値が感じられる状態で次世代に引き継がれています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

農山漁村における複数の集落間での連携、企業・大学等や多様な主体の連携・協働、地区外の学生や社会人等とのつながり醸成を推進し、農村コミュニティの維持・活性化を図ります。また、農業分野における連携に留まらず、旅行業者・飲食業等、異業種と連携した農泊や琵琶湖システムを活かした取組を推進し、さらなる地域の活性化を図ります。

① 農作物の鳥獣被害を少なくする取組の推進

- 専門人材の育成や侵入防止柵の設置支援等による被害防止対策の推進【み】

② 農村コミュニティを維持・活性化する取組の推進

- 中山間地域の農業生産活動の継続や地域活性化への支援【人・2に再掲】【耕・農村】
- 新しい視点を取り入れた農村地域の活性化を促進【耕・農村】
- 棚田地域振興法に基づく指定棚田地域における計画策定や保全活動等への支援【耕・農村】

③ 異業種との連携による地域の活性化

- 多様な主体との連携による漁村への関連人口の拡大（北の近江振興）【社会・1から再掲】【水】
- 「浜の活力再生プラン（浜プラン）」の作成と実践を支援【人・2に再掲】【水】
- 市町による漁村活性化を支援【人・2に再掲】【水】
- 旅行業・飲食業等の多様な企業とも連携した、世界農業遺産「琵琶湖システム」を体感できる滋賀県ならではの農泊「しがのアグリツーリズム」の推進【人・3に再掲】【耕・農村】【農政】
- 認知度向上や魅力を伝えるための琵琶湖システム関連商品等の開発【経済・2から再掲】【農政】
- 琵琶湖システムのつながりを生かした連携強化【社会・3に再掲】【農政】

829 令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
35	主な野生獣による農産物被害金額	百万円		
36	漁業体験等で漁村を訪れる人数	人		
37	中山間地域等直接支払制度での ネットワーク化計画の策定率 【人・2に再掲】	%		
38	県農泊ネットワーク組織に加入した 農泊予定地域数【人・3に再掲】	地域		

830

831

832

833

社会・3 地域全体で生産基盤を守る

目指す 2035 年の姿

多様な主体が連携して農業水利施設や農地等の農業生産基盤を保全する活動を行うことにより、次世代に農業生産と多面的機能が損なわれることなく、利用可能な形で引き継がれています。また、漁業関連施設についても、次世代が活用できる状態が維持されるとともに、漁村においても水産多面的機能が維持され、漁場の生産力が回復しています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

多様な主体が参加できる地域資源の保全活動や中山間など条件不利地の生産が維持できる活動を支援するとともに、基幹的な農業水利施設のアセットマネジメントや漁場の保全活動や、漁港関連施設の有効利用を推進します。

① 農業・水産業生産基盤の整備

- 生産性の向上に資するほ場整備や農道の整備【耕・農村】
- 老朽化が進む農業水利施設のアセットマネジメントによる長寿命化対策の推進【耕・農村】
- 農村の生活基盤である集落道や農業集落排水施設の機能維持・向上【耕・農村】
- 漁港関連施設の有効活用および利用適正化の取組を支援【水】
- 魚介類の産卵繁殖や生息場所となる水ヨシ帯および砂地の造成と機能維持・回復【環境・1から再掲】【水】
- 水草除去や湖底・河床の耕耘等による湖底環境や河川環境の改善【環境・1から再掲】【水】

② 多様な主体の連携・協働による地域資源の保全・活用

- 農業水利施設の管理を担う土地改良区の体制強化(土地改良区間連携の促進)【耕・農村】
- 農地や農業水利施設の管理に対する多様な主体の参画の促進【耕・農村】
- 集落内外の組織や非農家の住民との更なる連携、活動組織の広域化等を図りながら、地域資源(農地・水路・農道等)の共同保全活動を支援【人・2に再掲】【耕・農村】
- 漁業者をはじめ地域の住民による漁場環境保全、植林活動などへの支援【環境・1から再掲】【水】
- 認知度向上や魅力を伝えるための琵琶湖システム関連商品等の開発【経済・2から再掲】【農政】
- 琵琶湖システムのつながりを生かした連携強化【社会・2から再掲】【農政】

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
39	水産多面的機能発揮対策(協定面積)	ha		
40	農業水利施設の保全更新により用水の安定供給を確保する農地面積	ha	累計 30,920	累計
41	将来にわたり農業水利施設等を適切に保全していくための構想(水土里ビジョン)の策定	区域	0	

(4)視点「環境」琵琶湖を中心とする環境と調和し気候変動・地球温暖化のリスクに対応した循環型の農業・水産業が営まれるとともに、誰もが環境を守る取組を誇りに感じている

環境・1 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する

目指す 2035 年の姿

世界農業遺産「琵琶湖システム」の取り組みが継続されていることにより、生産性と持続性が両立しています。

このことにより、環境こだわり農業の定着に加え、オーガニックエリアが拡大され全国のトップランナーとしての地位を確立しているとともに、琵琶湖の漁場環境が保全され水産資源は回復へと向かっています。

こうして生産された農産物や水産物は、消費者からも評価されることにより、付加価値が伝わる生産・流通・消費の好循環が実現しています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

国内トップを走るオーガニックエリアの拡大と、生産性・持続性を両立した環境こだわり農業の展開、漁場環境の保全再生と栄養塩等の健全な循環による水産資源の回復、これらの取り組みが消費者に評価されるよう生産、流通・販売、消費の食料システムの確立をすすめます。

① 生産性と持続性を両立した環境こだわり農業等の展開

- 水稻新品種の導入や先端的技術(スマート技術等)による生産性の向上【み】
- 有機質資源の活用や総合防除技術導入等による持続性の向上【み】
- 新技術等を活用した農業濁水の流出防止および廃プラスチック類の排出抑制【み】
- 耕畜連携の推進による地域内資源流通の促進【畜】
- 農業排水の循環利用への取り組みに対する支援や水質浄化施設の整備【耕・農村】
- 「魚のゆりかご水田」をはじめとする豊かな生き物を育む水田の普及拡大【経済・2に再掲】【耕・農村】【農政】

② 環境と調和した全国のトップランナーとしてのオーガニック産地の拡大

- オーガニック産地の拡大【み】
- オーガニック「きらみずき」の生産拡大【み】
- オーガニック農業を支える栽培技術の開発・普及(環境こだわり農業、オーガニックに関する試験研究)【み】

③ 環境と調和の取れた付加価値が伝わる生産・流通・消費の好循環の実現

- 環境こだわり農産物等を取り扱う生産、流通、販売、消費の連携強化【み】
- 消費行動の変化を進める情報の伝達【み】

④ 漁場環境の保全再生と栄養塩等の健全な循環による水産資源の回復

- 琵琶湖定期観測等による漁場環境の把握【環境・2に再掲】【水】
- 魚介類の産卵繁殖や生息場所となる水ヨシ帯および砂地の造成と機能維持・回復【社会・3に再掲】【水】
- 水草除去や湖底・河床の耕耘等による湖底環境や河川環境の改善【社会・3に再掲】【水】

- 903 ● 漁業者をはじめ地域の住民による漁場環境保全、植林活動などへの支援【社会・3に再掲】【水】
- 904 ● 外来魚やカワウ等の有害生物の効率的な駆除の推進【水】
- 905 ● 気候変動等をふまえた水産資源の変動要因の解明と効果的資源回復技術の開発【環境・2に再掲】【水】
- 906 ● 琵琶湖の漁場生産力の評価と回復策の検討【水】

907

908 ⑤ 地域の漁場の利用適正化

- 909 ● 漁業権漁場の適切で有効な利用の推進【水】
- 910 ● 遊漁の電子手帖「FiShiga(フィッシング)」の運用と活用拡大による遊漁の適正化を推進【水】
- 911 ● 遊漁による漁場と資源の利用調整と適正化を推進【経済・1に再掲】【水】

912

913 ⑥ 家畜ふん堆肥の有機資源としての有効活用と耕畜連携による飼料づくり

- 914 ● 耕畜連携による飼料用稲わらの収集と稲発酵粗飼料の利活用推進【畜】
- 915 ● ペレット化等により堆肥の広域流通を促進し、土づくりの取組を推進【畜】
- 916 ● 自給飼料生産や飼料用米活用等、飼料自給率の向上を推進【畜】

917

918

919 令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
42	水稻新品種「きらみずき」作付面積	ha		
43	化学合成農薬出荷量の削減率	%		
44	オーガニック水稻作付面積	ha		
45	飼料用稲わらの県内自給率	%		
46	家畜ふん堆肥の耕種農家の年間利用量	千トン		
47	冬季ニゴロブナ当歳魚資源尾数	万尾		
48	外来魚生息量	トン		
49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【経済・2に再掲】	地区		

920

921

922

環境・2 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む

目指す 2035 年の姿

農業・水産業の現場において、温室効果ガスの排出を削減する緩和策と、温暖化による影響への適応策が実践され、地球温暖化への対応が進んでいます。また、農林水産分野の横断的な人のつながりによって、2050 年の CO₂ ネットゼロに向けた検討が進行し、農業・水産業がつづいていくための、新たな着想に立った試験研究や取組の実証が行われています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

農村地域における再生可能エネルギーの地産地消や、耕畜連携による自給飼料・堆肥の循環促進等の温室効果ガス削減に向けた「緩和策」を進めると共に、高温化でも品質が低下しにくい新品種の開発や、気候変動を踏まえた水産資源回復技術の開発等、温暖化による影響への「適応策」に取り組めます。またバイオマスなどを活用したエネルギーの地域内循環や消費者の行動変容等、中長期的な対応策の検討を行います。

① 温暖化の進行を緩和する対策の展開

- 農業分野における温暖化緩和策(秋耕、中干し、カバークロップ等)の導入・取組拡大【み】
- 土壌炭素貯留の実践(=土づくり)促進のための具体的な手法確立【み】
- ペレット化等により堆肥の広域流通を促進し、土づくりの取組を推進【環境・1から再掲】【畜】
- 自給飼料生産や飼料用米活用等、飼料自給率の向上を推進【環境・1から再掲】【畜】
- 地域飼料活用へ向けた試験研究、アミノ酸バイパス飼料等温室効果ガス削減につながる生産方法導入の推進【畜】
- 水産業における燃油削減運動の促進【水】
- 農村地域における再生可能エネルギーの地産地消の推進【耕・農村】
- 長期中干しや冬期湛水など環境負荷低減にかかる地域ぐるみの取組を支援【耕・農村】

② 温暖化による影響への適応策の展開

- 温暖化に対応した栽培技術・新品種の育成・普及促進【み】
- リスクに備えた基礎研究の実施(水稻、麦の作況、土壌モニタリング、分析手法の開発等)【み】
- 病害虫や外来雑草の侵入・まん延リスクに備える防除技術の開発・普及および防除体制の構築【み】
- 暑熱対策等、家畜の快適性向上へ向けた飼養環境整備を推進【畜】
- 琵琶湖定期観測等による漁場環境の把握【環境・1から再掲】【水】
- 気候変動等をふまえた水産資源の変動要因の解明と効果的資源回復技術の開発【環境・1から再掲】【水】
- 気候変動や漁場生産力、資源状況をふまえた重要魚介類の種苗放流の推進【経済・1から再掲】【水】

③ 2050 年 CO₂ ネットゼロに向けた中長期的な対応策の検討

- 農業者や企業を含めたバイオマスエネルギー利用検討促進【農政】
- 持続可能なエネルギー導入・環境負担低減活動のための基盤の強化【農政】
- 適応策をとることで同時に緩和策にもつながる対策の検討【農政】
- 生産にかかる資源やエネルギーの地域内流通および消費に関する対策の検討【農政】

- 961
- 消費者の意識や行動変容を促す対策の検討【農政】
- 962
- CO₂ネットゼロに資する最新技術や優良事例等の調査研究と実装に向けた支援【農政】

963

964

965

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
50	温室効果ガス削減の取り組み面積 (秋耕、中干し、カバークロップ等)	ha		
51	漁期前半の漁獲を支える早生まれ(9 月)のアユ仔魚数	億尾		

966

967

環境・3 自然災害などのリスクに対応する

目指す 2035 年の姿

研究機関等が必要なデータを蓄積・解析して開発した、自然災害等のリスクを回避する方法に基づき、行政等の関係機関は農業者・漁業者へ適切な情報を提供するとともに、発生時に必要な体制を備えています。

気候変動が進む中においても、農業災害による損失や伝染性疾病等の発生が予防されることにより、農業者や漁業者は安定した食料供給を実現するとともに、洪水等のリスクが抑制されることにより、県民は安心して生活を送っています。

目指す姿の実現に向けた具体的施策

リスクに備えた基礎研究の推進や農業用ダム・ため池等の防災減災対策、家畜伝染病や植物病虫害・魚病等の予防及び発生に備えた体制整備、経営者の気候変動リスクマネジメントを推進します。

① 農業用ダム・ため池等の防災減災対策

- 農業用ダムの洪水調節機能の発揮と田んぼダムの取り組み拡大による地域防災力の強化【耕・農村】
- 防災重点農業用ため池（廃池を含む）や排水路の整備【耕・農村】
- ため池ハザードマップの周知・活用による減災意識の向上【耕・農村】
- 農業用ため池の適正な保全・管理のための支援【耕・農村】

② 家畜伝染病等の発生に備えた体制整備や養殖業における魚病対策の推進

- 高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病対策の推進【畜】
- 飼養衛生管理基準遵守へ向けた指導【畜】
- 魚病発生状況の把握および薬事指導の推進【水】

③ 気候変動等に対するリスクマネジメントの推進

- 園芸特産作物のセーフティーネットなど加入促進【み】
- 漁業セーフティーネットや漁業共済等の加入促進【水】
- 自然災害後の漁場や漁業施設の復旧に対する支援【水】
- 収入保険制度の推進【農政】

令和 12 年度を目標とする成果指標

No.	指標	単位	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
52	漁業共済加入者数	人		
53	ため池対策(廃池含む)工事の着手数	箇所		

1002 3. 成果指標・参考指標一覧

1003

1004

令和12年度を目標とする成果指標一覧

政策の方向性	No.	指標	単位	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
人・1 担い手を確保・ 育成する	1	自営就農者数	人		
	2	就職就農者数	人		
	3	農地の集積率	%		
	4	広域での集積・集約化等に取り組む地域数	地域		
	5	農業法人数(個別経営、集落営農、企業等)	経営体		
	6	女性の認定農業者数	人		
	7	新規漁業就業者数	人		
人・2 農業・農村・漁村 を支える多様な 人材を確保・育 成する	8	実行中の「浜プラン」策定地区数	地区		
	37	中山間地域等直接支払制度でのネットワーク化計画の策定率【社会・2から再掲】	%		
人・3 農業・水産業の 魅力発信による ファン拡大	9	農畜水産物PRに関する県運営のSNSフォロワー数	人		
	10	おいしがうれしがキャンペーン登録事業者数(生産者を除く)	事業者		
	11	琵琶湖の水産物を食べた県民の割合	%		
	38	県農泊ネットワーク組織に加入した農泊予定地域数【社会・2から再掲】	地域		
	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数【社会・1から再掲】	人		
経済・1 需要の変化に対 応できる生産力 を確保する	12	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア	%		
	13	滋賀県産米(うるち玄米)の一等米比率(西日本での順位)	% (順位)		
	14	麦の単収	kg/10a		
	15	大豆の単収	kg/10a		
	16	近江牛の飼養頭数	頭		
	17	和牛子牛の県内出生頭数	頭		
	18	琵琶湖の漁獲量(外来魚除く)	トン		
	19	資源管理方針の目標達成魚種数	魚種		

	20	大区画ほ場整備率(50a 以上)	ha	7.1%(R3 実績)	9.0%(R10 実績)
経済・2 地域の魅力や強 みを生かした生 産を進める	21	1億円以上の売上を維持または目指す 産地・経営体数(野菜、花き、果樹)	産地また は経営体 数		
	22	みおしずくの栽培面積	ha		
	23	オーガニック茶栽培面積	ha		
	24	学校給食における地場産利用を拡大す る取組のモデル数	カ所		
	25	養殖ビワマス生産量	トン		
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り 組む地区数【環境・1から再掲】	地区		
経済・3 経営体質の強化 を進める	5	農業法人数(個別経営、集落営農、企業 等)【人・1から再掲】	経営体		
	26	漁業共済加入経営体の平均水揚額	千円		
	27	自動給水栓の設置面積	ha		
経済・4 消費喚起による ブランド力の向 上および販路拡 大	28	近江米(コシヒカリ)の相対取引価格の 西日本での順位	順位		
	29	食味ランキングでの「特 A」取得品種数	品種数		
	30	輸出促進協議会構成団体の輸出額	千円		
	31	「おいしが うれしが」キャンペーン登録 店舗数(首都圏)			
	32	琵琶湖八珍マイスター登録件数	件		
社会・1 農山漁村に関わ る人を増やす	33	河川漁協における遊漁者数(のべ)	人		
	34	棚田ボランティアの年間参加延べ人数 【人・3に再掲】	人		
社会・2 多様な主体との 連携強化で農山 漁村の暮らしの 維持・活性化を 図る	35	主な野生獣による農産物被害金額	百万円		
	36	漁業体験等で漁村を訪れる人数	人		
	37	中山間地域等直接支払制度での ネットワーク化計画の策定率 【人・2に再掲】	%		
	38	県農泊ネットワーク組織に加入した 農泊予定地域数【人・3に再掲】	地域		
社会・3 地域全体で生産 基盤を守る	39	水産多面的機能発揮対策(協定面積)	ha		
	40	農業水利施設の保全更新により用水の 安定供給を確保する農地面積	ha	累計 30,920	累計
	41	将来にわたり農業水利施設等を適切に 保全していくための構想(水土里ビジョ	区域	0	

		ン)の策定			
環境・1 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する	42	水稻新品種「きらみずき」作付面積	ha		
	43	化学合成農薬出荷量の削減率	%		
	44	オーガニック水稻作付面積	ha		
	45	飼料用稲わらの県内自給率	%		
	46	家畜ふん堆肥の耕種農家の年間利用量	千トン		
	47	冬季ニゴロブナ当歳魚資源尾数	万尾		
	48	外来魚生息量	トン		
	49	豊かな生き物を育む水田づくりに取り組む地区数【経済・2に再掲】	地区		
環境・2 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む	50	温室効果ガス削減の取組面積（秋耕、中干し、カバークロップ等）	ha		
	51	漁期前半の漁獲を支える早生まれ(9月)のアユ仔魚数	億尾		
環境・3 気候変動から生じる自然災害などのリスクに対応する	52	漁業共済加入者数	人		
	53	ため池対策(廃池含む)工事の着手数	箇所		

1005

1006

1007

1008

第4章 政策の推進方法

1009

(計画原案にて作成)

1010

1011

参考資料

1012

(計画原案にて作成)

1013